

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を基本とし、事業所独自の目標を掲げ達成するために計画書を作成し振り返りを行っている。	法人理念は玄関の広いフロアに掲示され、グループホーム独自の職員の年間目標は3階のホームの壁に貼り、毎月行っている職員会議開始時に、職員全員で唱和してから会議を始めていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの蔓延に伴い、地域とのかかわりが持てなかった。	市の中心地に立地しているため、コロナ禍になる前は商店街に直ぐに出かけられ、みなさん散歩も楽しみにしていて、地域との交流も自然に行うことが出来ていました。	今は交流事業の叶わない社会情勢ですが、感染症レベルが下がった際は地域との交流が再開できることを期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍のため地域貢献も困難であったが自治会役員の方との意見交換等行えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為会議の開催は自粛となったが文書での活動報告を行い、ブログを活用し生活の様子を回覧できるようにした。	コロナ禍で会議の開催は出来ないが、ホーム内で元気に過ごしている利用者さんの様子をブログや文書で定期的に伝えて、今後の会議開催に向けた情報交換を行っていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	不明な点や相談事項が発生する際は市役所窓口へ出向きお話をさせていただいている	コロナ対策についての相談に市の窓口に向いた時は、ホーム内の様子を伝え、市の担当者と情報交換を行っていました。市の実地指導でも「良くやっている」と評価を受けていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のない暮らしが継続できるよう環境を整えている。日々の変化を中心に申し送りを細かく行い、事故に繋がらないよう対策している。	車いすの利用者が、日常的に自由に動いて、同じ階に隣接している老人施設にお邪魔して交流を楽しむなど、職員が見守る中、自由な行動が出来るように体制を整えたケアの実践に取り組んでいました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束、虐待防止について施設内の勉強会を通し周知できている。毎月権利擁護委員会の巡回があり、可視化されている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	委員会を中心に権利擁護について勉強会を行っている。巡回で指摘される環境については速やかに改善できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の重要事項の説明は分かりやすく行い契約後の不明点が発生した際も柔軟に対応している。介護報酬改定時には事前に連絡し、書面での説明、同意をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に近況報告、ご家族要望等世間話が行えるよう時間を設けている。面会が遠のいているご家族へ面会の提案、近況報告を電話にて行っている。	事業所側から電話連絡を入れて利用者の様子を伝えた際は、ご本人と話をしてもらえるように段取り、その後心配事や要望を聞くようにするなど、配慮された対応を定期的に行っていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日15分ミーティングを行っている。その際に入居者様の変化や、業務上の課題について話し合うようにしている。	管理者は、毎日設けたショートミーティングの時間を大切に、日々変わる利用者の情報交換や、職員個々の提案を聞き取って、その後の行事やケア方法に繋げて、アットホームな雰囲気づくりに心がけていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人のキャリアパスを活用し、面接を行い昇進できる取り組みをしている。職員個々の望む働き方を理解し働きやすい職場づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員個々のスキルを上げるため資格取得するよう働きかけている。取得するため勤務割り等配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今年度外部研修は自粛。法人内の他事業所との交流は行えた。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員から声をかけるようにしている。表情、行動、言葉から不安となる要因を関わる中で把握し情報共有を行いながら、些細な気付きも支援に繋げられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の心情や思いを受け止め、ご本人がどのように暮らしてほしいか聞き取りをし実現できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要なサービスが発生した際は迅速に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の立場に立ち、気持ちに寄り添いながら出来る力は継続できるようさりげない支援を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いや要望等を聞き取り、実現に向け努めている。日ごろの様子を随時報告し、よい関係性を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会制限がありご家族と過ごす時間も十分に取れていないが、知人からの贈り物や手紙の受け渡しを行えた。面会時に、ご家族からご近所の近況報告をしていただける場面もあった。	コロナ禍で閉鎖的になると、認知症が進むことを心配され、週に2回、30分間の面会を設けたり、電話を繋ぐなどして、ご家族や友人等との関係性を保てるように工夫されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士が声を掛け合えるよう職員が介入している。食事、体操時の席の工夫をし孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も、ウエス用の布、新聞紙等お持ちいただいている。屋上畑で収穫した野菜や手作りの味噌をお渡しし、継続的なお付き合いができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様個々の生活ペースで暮らせるよう支援している。時々気分や体調に合わせて柔軟に対応。意思表示が困難な場合は表情やしぐさから推測し思いに沿うよう努めている。	散歩や外に出かけたい様子の時、入浴拒否があった際は、上田大手門地区を一望できる6階屋上に出向いて、畑や花に親しみ、気持ちをリフレッシュして気分転換を図り、個々の様子に見合った、その時々の変化に沿った柔軟な対応がされていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前面談時に聞き取りをしている。足りない情報がある際は随時ご家族、前任担当者から聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	24時間シートの活用、介護記録へ詳しく記載することで、その時々々の心身状態、生活リズムを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日ミーティング時に入居者様の変化について話し合うようにしている。実施モニタリング表を活用し職員間で支援内容の実施の有無、支援内容の変更の必要性について話し合いができています。	夜間の様子や個々の様子を時系列で追った細やかな記録をとり、日々のミーティングで検討されて介護計画にいかされた計画書が作成されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別介護記録(24時間)へご本人が発した言葉、行動、気付きを記録し職員間の情報共有や介護計画、支援方法の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	体調変化等、急を要する際は施設看護師、協力医と連携が図られている。用具等必要な支援の導入を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議で地域との繋がりが持てるよう働きかけている。イベントや地域貢献できる場は無いか情報をいただいている。今年度はコロナ禍のため活動が制限された。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医の内科、週2回、精神科医、月2回の定期回診がある。急を要する体調変化時は、ご家族、施設看護師と協議し速やかに受診できるよう調整している。	複合型老人福祉施設になっているので、常駐している看護師や嘱託医との連携がとれており、急変時も迅速で適切な対応で、皆さん安心して暮らしていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設看護師と常に情報共有を行い、体調変化時に相談できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期回診時に細かな体調変化も医師へ伝え、早期治療が開始出来るよう連携している。入院治療が必要な際は病院、ご家族と連携を図り、入院後の状態把握を行い早期退院に向け調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	「看取りに関する方針」の説明を行い、看取り同意書、利用者の自己決定(生前指示書)の同意をご本人、ご家族と入居時に取り決めをしている。体調変化が生じる際は、その都度意向の確認をご家族と行っている。	昨年1名を看取り、コロナ禍だった事もあり、面会できる特別な環境を整え、ご家族、職員との協力体制と、看護師との連携で夜間の急変時にも医師が駆け付けるなど、最大のケア体制で取り組んでいました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設勉強会で緊急時の初期対応等学んでいる。消防署へ依頼し救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時に備え年2回消防署の協力を得て防災訓練を行っている。今年度はコロナ禍のため施設主体で訓練を行った。	建物3階にグループホームがあるため、災害時は、隣接しているコンビニの駐車場に、はしご車が入り、救助する避難体制が決められていました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーを損ねない支援を心がけている。場面ごとの声掛けやタイミングに配慮している。	その時々々の希望に沿った支援に心掛けて、個々の特性を見極めて、プライドを傷つけないように支援していました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事、飲み物の嗜好、熱さ等希望に合わせている。時々々の気分に合わせて選択できるように声掛けしている。意思表示が困難な方へは表情や仕草を見ながら思いを知るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の生活リズムに合わせて支援している。時々で過ごしたい場所で過ごしていただき、入浴時間の希望や就寝時間も決めていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日常着はご本人が選択できるように声掛けし一緒に選ぶことがある。毎月訪問理美容を利用し、好みのヘアスタイルにいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	グループホームで仕込んだ味噌や、屋上畑で育てた野菜で何を作るかと献立を入居者様を交えて決めている。どんな料理ができるかと毎回楽しみにされている。	通常は1階の厨房で作られた食事をグループホームで食器に盛り付けて食べていますが、月に2回、利用者と職員と一緒にグループホームの台所で作って楽しむ日を設けていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量を介護記録へ記載し把握している。体調に合わせた食事形態へ柔軟に対応できるよう管理栄養士に都度相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは日課となっている。個々に合わせた支援を行い夕食後に義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。義歯の不具合や口腔内に異常がある際や緊急時は訪問歯科を受診するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	24時間シート、介護記録を活用し排泄状況を把握し、排泄間隔が開いている際の、さりげない促しをしている。個々に合わせた排泄用品を選定し皮膚トラブルを防げるよう努めている。	リハビリパンツを皆さん着用されているので、個々の尿意間隔を把握して、さり気ないトイレへの促しに心がけていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	介護記録で排便状況を把握している。10時に牛乳を提供して水分補給を促している。活動量を増やせる工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	希望に合わせて入浴していただいている。入浴剤を使用し楽しみになるよう工夫している。浴槽をまたぐ動作が困難な方はリフトを使用し、安全に配慮し支援している。	入浴を拒否されてしまう時は、1度屋上に散歩に出かけた後にもう一度声をかけて、スムーズに入浴してもらえるように工夫していました。無理に入浴を勧めず、楽しく安心して入ってもらえるような支援に心がけていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の希望に合わせて起床、就寝していただいている。居室の空調、明るさ、掛物は希望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	飲み忘れや配薬ミスが無いよう看護師と二重チェックしている。服薬内容をファイルし職員が把握できるようにしている。回診時は医師と管理者若しくは職員が投薬についても相談できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の持つ力に合わせ、生活の中で役割となる活動が日課となっている。職員も一緒にいき、労いの言葉をかけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族の協力も得ながら外出していたが、今年度はコロナ禍のため活動が制限された	外出が許されない中、個々のタイミングで屋上へ散歩で移動したり、今月の歌を決めて1か月間同じ歌を歌い続けたり、リハビリの先生と一緒に体操をしたり、室内で楽しめる活動に取り組んで、ストレスをためないような工夫をしていました。	現在は、コロナ禍で行動抑制がありますが、解除になった際は商店街に出かけるなど、自由で気軽な外出支援の再開を期待しています。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭は施設事務所の施錠できる場所で管理・保管をしている。近隣へ買い物に行く際には支払い手続きが行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホーム内の電話を利用しご家族とお話されたり自己所有の携帯を使う方もいる。ご家族からの手紙も届くことがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同スペースの空調温度、湿度を適温に設定している。冬季には加湿器を設置し乾燥を防ぐよう努めている。季節に合わせた野菜を畑で育て、食事に利用している。	各部屋の入口には手作りの暖簾が掛けられ、ドアは寝る時まで開けられており、開放的でアットホームな雰囲気が感じられました。利用者さんも穏やかに満足した生活を送られている様子が伺えました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホーム内の3か所にソファを置き、好きな場所で過ごせるよう設置場所の工夫をしている。テラス側のソファでは外を眺められるようになっている。暖色系の照明とテーブル、椅子は木材を使用した温かみのある環境となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	収納家具、床頭台、ベッドは各居室設置されているが個々の馴染みの物は自由に持ち込んでいただいている。	コロナ禍でご家族に会えない中、最近では、新たに家族から送られてきた写真を部屋に飾ったり、新しい毛布を受け取って喜んで使っている利用者さんがいるなど、自由に持ち込みを受け入れ、気分良く過ごせるように配慮されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ、浴室、廊下に手すりが設置されている。居室入口に足元ライトがあり、夜間も安全に動けるようになっている。トイレ扉には「お手洗い」と表示している。		